

令和4年度 第5回全国小学校キャリア教育研究協議会 京都市大会 第2次案内

なりたい自分につなげるキャリア教育の創造
 ～「学びの蓄積」を「なりたい自分」につなげるためのメタ認知能力の育成～

- 1 日時 令和5年2月3日（金）11:00～17:00
- 2 会場 京都市立音羽小学校 （〒607-8066 京都市山科区音羽森廻り町32 Tel 075-592-0001）
- 3 主催 京都市大会実行委員会
 - ・全国小学校キャリア教育研究協議会
 - ・京都市小学校生き方探究・キャリア教育研究会
- 4 後援 京都市教育委員会 京都市小学校長会 公益財団法人日本進路指導協会
- 5 日程 11:30～17:00 ※11:00 受付

11:00 11:30 12:30 13:50 14:35 14:50 15:50 16:00 16:50 17:00

受付	全体会 挨拶・表彰 研究報告	昼食	公開 授業	移動	課題別 分科会	移動	安部恭子 視学官 記念講演	閉会
----	----------------------	----	----------	----	------------	----	---------------------	----

- (1) 全体会 11:30～12:30 司会 京都市小学校生き方探究・キャリア教育研究会
- 開催挨拶 全国小学校キャリア教育研究協議会 三浦 清孝 会長
 京都まなびの街生き方探究館 永田 和弘 事務局長 様
 - 表彰 功労者表彰及び会場校表彰
 - 研究報告 京都市型キャリア教育「生き方探究教育」の取組 京都市立学校生き方探究・キャリア教育研究会 研究部長 田野 早苗 教諭
 音羽小学校のキャリア教育 京都市立音羽小学校 研究主任 宇都木 史 教諭

(2) 公開授業 13:50～14:35

学年・組	教科・領域	単元名	授業者
2年2組	学級活動（3）ア	「なれたかな？すてきな2年生！」	通 大介
4年2組	図画工作科	「つなぐんぐん」 ～丸めた紙で～	関崎 有輝
6年1組	総合的な学習 の時間	「わたしのすてきな生き方宣言」	上田 貴也

(3) 課題別分科会 14:50~15:50

	分科会	提案者	司会 記録	指導助言者
1	各教科ですすめるキャリア教育 キャリア教育の授業づくり	京都市立音羽小学校 宇都木 史	峰内琴美(葛野小) 西村 崇(新町小)	京都市教育委員会生涯学習部 稲葉弘和 統括首席社会指導主事
2	生活科・総合的な学習の時間 ですすめるキャリア教育	京都市立音羽小学校 小林 瑞生	辻川 孝一(音羽小) 大西裕樹(七条第三小)	京都まなびの街生き方探究館 葉山みどり 指導主事
3	特別活動を要としたキャリア教育 学級活動と学校行事	京都市立小栗栖宮山小学校 沖 一真	城谷裕司(伏見板橋小) 澤田尚吾(石田小)	日本体育大学 橋谷 由紀 教授
4	キャリア・パスポートとポータル サイトを活用したキャリア教育	京都市立岩倉北小学校 大嶋 慧	井上拓哉(待鳳小) 義川智子(岩倉北小)	京都まなびの街生き方探究館 吉岡健志 指導主事

<時程> 60分(提案15分 研究協議30分 指導助言15分)

※会場設営の都合上、申し込み時に、参加する分科会を選んでください。

(4) 記念講演 16:00~16:50

「特別活動を要としたキャリア教育のすすめ」

講師 文部科学省初等中等教育局 視学官 安部 恭子 先生

(5) 閉会 16:50~17:00 司会 キャリア研役員

- 閉会挨拶 京都市立音羽小学校 鍛冶 真知子 校長
- 次回開催地 東京都荒川区立峡田小学校 津田 利枝 校長

- 5 参加費 3000円(資料・指導案) ※参加申込をしていただいた学生は無料です。
 ○当日、受付でお支払いください。 ※銀行振込の対応はできません。
 ○所属とお名前をお申し出ください、受付で資料・指導案と領収書をお渡しします。

- 6 申し込み ※下記フォームよりお申込みください。

<https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=slaGoEcaf0aQ1HvCI70NQzaupLA3g1VNsyPrYOQVKSURUM0o3Vkg2TUuHTzNRVIBQQUc50FpSRzFUWS4u>



- 7 京都まなびの街生き方探究館の施設見学

令和5年2月2日(木)に同館の施設見学が可能です。希望される方は、
 林 久徳 主任専門主事 (hi978-hayashi@edu.city.kyoto.jp) まで、ご連絡ください。

- 8 問合せ 京都市大会実行委員会 事務局

京都市立岩倉北小学校 校長 三浦 清孝(京都市大会事務局)
 〒606-0021 京都市左京区岩倉忠在地町5 Tel 075-721-5618
 E-mail yu849-miura@edu.city.kyoto.jp

- 9 会場アクセス

- JR「山科」駅・京阪「山科」駅・京都市営地下鉄「山科」駅から徒歩約14分(1.1km)
 ※山科駅前にタクシー乗り場もあります。タクシー約4分
- 京阪京津線「四ノ宮」駅から徒歩9分(700m)
- お車でのご来校も可能です。

研究の概要

京都市小学校生き方探究・キャリア教育研究会

研究部長 田野 早苗

(京都市立池田小学校 主幹教諭)

1 令和4年度研究主題

なりたい自分につなげるキャリア教育の創造

～「学びの蓄積」を「なりたい自分」につなげるためのメタ認知能力の育成～

～カリキュラムマネジメントと生き方探究・パスポートの活用～

京都市では、キャリア教育を「生き方探究教育」として進めている。生き方探究教育とは、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」とであると定義されている。ここでいう、「必要な基盤となる能力」については、文部科学省より「基礎的・汎用的能力」として、4つの力が示されている。これを基に、平成27年度、京都市教育委員会は、「生き方探究教育で育てたい『4つの力』」を提示した。

<生き方探究教育で育てたい「4つの力」

(H.28京都市生き方探究(キャリア)教育スタンダードより) >

共生と自立	
人とともに 社会を生きる 力	意見の違いや立場の違いを理解し柔軟に対応する力 自分の考えを正確に伝える力 (人間関係形成能力)
	地域や家庭での役割を果たし、共に生きる力 社会に参画し、貢献する力 (社会形成能力)
自己を知り、 律する力	自分を理解し可能性を信じて主体的に行動する力 やりたいこと、できること、しなければならないことを理解する力 (自己理解能力)
	自分の考えを絶対視せず、感情をコントロールする力 現状に満足せず、達成感を次のステップの原動力として向上しようとする力(自己管理能力)
課題を見つけ、 解決する力	様々なことに好奇心をもち視野を広げる力 身の回りや社会の事象から課題を見付ける力 課題を分析し、適切な計画を立て処理し、解決する力 よく考え意思決定をする力 (課題対応能力)

夢や希望をつくりあげる力	学校での学びと社会のつながりを意識し意欲的に学ぼうとする力 グローバルな視野をもち、自分の将来を世界と結び付ける力 働くことの意義を理解する力 生活設計をする力 (キャリアプランニング能力)
--------------	---

この「4つの力」を育むためには、児童が、自己を客観的に見つめ、人や社会との“つながり”を大切にしながら、主体的に、社会的・職業的自立に向けて能動的に自己を高めようとする態度を養うことが大切である。そのためには、「自己をよく理解し、自己のキャリア発達を客観的にとらえる視点(メタ認知の視点)をもたせることが重要である」と考え、ここ数年、本研究会の授業づくりのポイントとして取り組みを進めてきた。

“キャリア”とは、“轍(わだち)”を意味する言葉であり、轍とは、車輪が地面に残す跡を指す。轍は、馬車という主体が、道を通った後でしか確認できない。つまり轍とは、児童が様々な経験を通して形成していく成長の過程を示すものであると言える。児童は、なりたい自分になる(夢の実現の)ために、自分がたどってきた“キャリア”を客観的かつ俯瞰的に振り返り、未来へとつなげていく力を培う必要がある。

メタ的に自分を捉え、自分が様々な社会的要素とつながり合っていることを実感するとともに、将来、社会の一構成員として社会的・職業的自立を果たすという将来展望や目的意識をもたせることこそが、キャリア教育に課せられた使命であると考えている。

そこで、本研究会では、上記のねらいに応じた単元構想・授業実践をすすめる中で、意図的・計画的な振り返り活動を通して、「メタ認知能力」を培うカリキュラムマネジメントを積極的にすすめるとともに、生き方探究パスポートの等の活用を通して自らの「学びの蓄積」をすすめ、なりたい自分につなげる「キャリア教育」の創造を、今年度の研究主題として設定した。

2 令和4年度研究活動計画

今年度は、研究部、事務局を設置する。

(1) 研究部について

研究部を以下の4部会構成として、研究実践すすめる。

- ① 各教科ですすめるキャリア教育の授業づくり 部会
- ② 生活科・総合的な学習の時間ですすめるキャリア教育 部会
- ③ 特別活動を要としたキャリア教育 学級活動と学校行事 部会
- ④ キャリア・パスポートとポートフォリオを活用したキャリア教育 部会

(2) 事務局について

事務局は2つの部を設ける。

<事業部>

事業部の中心活動は、「第4回キャリア教育研究 京都大会」の準備・運営である。京都市立音羽小学校の研究発表会に関わり、ともに研究を進めていく。その際、担当する部会を決め、校内研究にも参加する。その中で実践を積み、キャリア教育の教科における実践の在り方を研究する。

< 広報部 >

広報部の中心的な活動は「生きキャリ通信」やホームページの作成・更新である。全市・全国に向けて広報することで、多くの教員がキャリア教育に取り組もうとする機運を高めたい。

(3) 令和4年度 研究会の取組計画

日時	活動内容・場所
6月2日(木)	令和4年度 前期総会 研究の概要 組織 事業計画等 第5回全国小学校キャリア教育研究協議会京都市大会について
9月～12月	4部会授業研究会(音羽小・小栗栖宮山小・岩倉北小) 音羽小学校校内授業研究会に参加
7月(夏休み)	第5回全国小学校キャリア教育研究協議会京都市大会に向けて 指導案検討・全国大会の運営等について
9月末頃	音羽小学校校内授業研究会に参加 第5回全国小学校キャリア教育研究協議会京都市大会に向けて 指導案検討・全国大会の運営等について
11月初旬頃	音羽小学校校内授業研究会に参加 第5回全国小学校キャリア教育研究協議会京都市大会に向けて 指導案検討・全国大会の運営等について
2月上旬	第5回全国小学校キャリア教育研究協議会京都市大会での京都市 小学校生き方探究・キャリア教育研究会の実践発表(音羽小学校)
3月	令和4年度 後期総会 令和4年度 研究・事業の報告 研究実践報告 第5回全国小学校キャリア教育研究協議会京都大会の振り返り 令和5年度の組織・事業計画

3 令和4年度研究報告

研究部は、昨年度から4部会構成で研究を進めている。ここ数年コロナ禍で、集まったの授業研究会や理論研修などができず、研究会として試行錯誤しながら進めてきた。そんな中でも、部長が中心に今でもできることを模索しながら、部会ごとに研究仮説を立て、授業研究を行ったり、研究実践を持ち寄り交流したりしてきた。授業研究会は授業の様子を映像に撮り、TeamsやZoomを活用して事後研究会を行ったり、TeamsやZoomを活用して部会を行ったりしてきた。

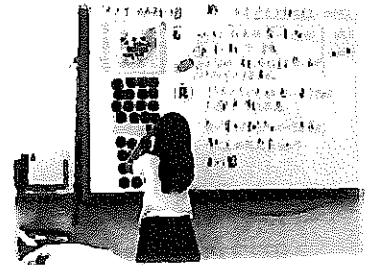
今年度はその規制も少し弱まり、各部会で集まったの授業研究会も行うことができるようになり、従来とまではいかないが充実した研究を行うことができた。また、全国キャリア教育研究京都大会に向けて、音羽小学校の校内研究部と連携し、指導案検討や探究館の主事を招いて理論研修も行った。

以下、今年度の取組を紹介する。

(1) 各教科ですすめるキャリア教育キャリア教育の授業づくり 部会

教科部会では、研究仮説を『各教科におけるキャリア教育の展開について～キャリア教育の視点を大切にした教科指導の展開と評価について～』と立て、授業研究を中心に研究を進めている。

池田小学校で9月に行われた算数科の授業については、算数科における目標をよりよく達成するために指導者が意識しておくキャリアの視点として、「児童が具体的な場面をイメージしながら、あまりの処理について考えることができるようにする。(キャリアプランニング能力)」「あまりの処理について、図や式を用いて話し合う中で試行錯誤しながら課題解決に向かう姿勢を育てる。(課題対応能力)」をもち、授業を行った。導入場面では、入学式の写真を示し、長椅子に4人ずつ座っていく場面を児童の体験とつなげた。問題との出会いを工夫することで、児童が意欲的に主体的に課題に取り組む雰囲気が出た。また、あまりの処理(1増やすのか、増やさないのか)について、どう考えたのかを話し合う場面を設定した。話し合う際には、2種類の考え方を表した式を板書しておき、余りを1増やすのか、そのままにしておくのかの論点が分かりやすくなるように工夫した。そうすることで、本時のねらいに迫る話し合いをすることができた。授業の最後には、学校生活の場面を示し、あまりの処理が活用されている場面(学習発表会など)をみんなで考え、共有した。



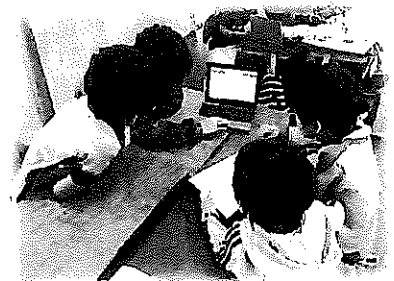
このように指導者がキャリアの視点をもって、どんな力をつけたいかを意識して授業を展開することで、児童が主体的に学びに向かい、算数科の目標にぐんと近づくことができた。(授業の詳細については、p.19～をご覧ください。)

今後も、教科の目標をよりよく達成するためのキャリア教育の視点を大切に、授業研究を進めていきたい。

(2) 生活科・総合的な学習の時間ですすめるキャリア教育 部会

生活科・総合的な学習の時間部会では、研究仮説を『生活科と総合的な学習の時間をつなげるキャリア教育～探究活動を通じてメタ認知能力を高め、能動的な学び手の育成を目指して～』と立て、京都市のオリジナルプログラムを活用した授業研究を進めている。

昨年度は、これまで京都市で取組を進めてきたスチューデントシティ学習の代替案として「わくわくワーク～なりたい私に向かって～」(以下、「わくわくワーク」)を中心に取組を進めた。



このプログラムでは、①社会には様々な職業があることを知ること、②働くことの意味や意義を考えること、③働く時に大切なことや必要な力があることに気付くこと、④社会の変化と未来の社会(Society5.0)について知ること、⑤学校の学びと自分の将来とのつながりに気付き、学びへの関心・意欲を高めることの5つをねらいとして、シミュレーションゲームにより仕事を体験できるプログラムになっている

る。(プログラムの詳細については、p.37～をご覧ください。)

児童は「わくわくワーク」の仕事体験を通して、働くことについて大切なこと・大変なことの両面に気付き、今の自分が将来に向けてどのような力をつけていく必要があるのか、気付くことができた。

今年度は、その「わくわくワーク」での学習をより充実させるために、京都まなびの街生き方探究館にある体験型施設を活用した本市オリジナルのプログラム、「わくわく WORK LAND」学習について研究を進めた。

昨年度までの学習にプラスして、体験型施設にある小さな社会で社会人として働いてみることで責任ややりがいを感じることができた。また、同じ会社で働くメンバーと「お客様に八ツ橋のよさを知ってもらおう商品 POP を作ろう。」「町のホットステーションとなるコンビニとはどんな店か考えよう。」など答えのない問いに取り組むことで、自分一人では気付けなかったアイデアに気づいたり、友達とより良いものに練り上げていく楽しさに気づきたりし、たくさんの児童が充足感を得ることができた。これは、社会の一員として実際に体験したからこそ得られる充足感である。その後の学習として、体験型施設で「働くこと」について学んだことを生かして、「マイプラン」を作成した。自分の将来に向け、どのような力が必要なのか、そのために今できることは何か、どのような働き方をしていきたいのかをまとめた。さらに、社会人として働く人からももらったアドバイスを受けて、練り直し、保護者に自分の生き方についてプレゼンテーションを行った。



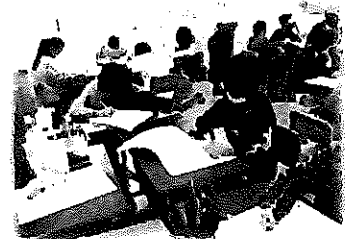
今後も、「わくわく WORK LAND」での体験活動が自己実現につながる充実した活動になるよう、プログラムをブラッシュアップしていきたい。

(3) 特別活動を要としたキャリア教育 学級活動と学校行事 部会

特別活動部会では、研究仮説を『一人一人のキャリア形成と自己実現を支える、自信や自己有用感を高める授業 ～自己の役割を自覚し、主体的に考えて行動できる児童の姿 三年次～』と立て、授業研究を中心に研究を進めている。

児童が、自分のよさや価値を見つけ、自身の存在や将来に対して自信や希望が持てるように、そして、集団での自己の役割を見つけ主体的に考えて行動できるように、昨年度より、学級内での当番活動に着目し研究活動を行ってきた。1年次は、係活動について、2年次、3年次は、当番活動に着目して授業研究を進めた。授業を考える際には、「発達段階を強く考慮した授業づくり」「授業実践前後に道徳の学習において、価値が意識づけできるようなカリキュラムマネジメント」を意識して取り組んだ。

1年次は、5年生で「学級活動(3)イ」に取り組んだ。学級活動(1)で話し合った、学級目標に近づく集団になるためにあった方がよい係などを考え、一人ひとりが自分の好きなことややりたいことを考え係に所属した。その後の係活動では、「自分や係のメンバーで活動を行うことで学級目



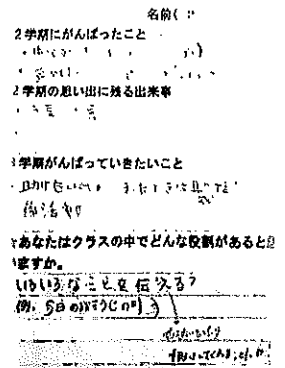
標に近づける」という想いを共有しながら、グループで創意工夫し自主的に取り組めるようにした。一人ひとりに役割があるため、誰一人かけても係が成り立たない。そのことで児童は、自己の存在意義を実感し、より学級目標に近づこうと意欲的に頑張る姿が見られた。すべての係活動が以前より活発に活動していた。

指導者の事後の課題として、内容項目「学級活動(1)イ学級内の組織づくりや役割の分担」と「学級活動(3)イ社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解」が混在しないように指導者が意識する必要があった。また、それぞれ事前に行った他教科の学習内容が、児童の思考に影響を及ぼすことが分かった。

2年次、3年次は、1年生で「学級活動(3)イ」に取り組んだ。1年児童ということもあり、学校生活においてまず、当番活動のみを1年間取り組ませることにした。当番は、学級生活をみんなが気持ちよく過ごすために学級の仕事を全員で分担して行うということを意識させ取り組ませた。一人一役ではなく三人一役にすることにより、助け合いながら活動する経験から学級目標に対しての達成感を持てるようにした。3年次には、2年次において課題であった、「つかむ」の実態把握を理想像ではなく実態に近づけるための手立てとして、集団でアンケートの検証を行った。その結果、2年次よりは適切に児童の実態をつかむことができた。また、「きめる」際の声掛けとして、2年次は心構えについて意識させすぎてしまい、具体的な行動に繋がらなかったことから、発達段階も考慮し、行動のみの意思決定もよいことを伝えた。そうすることで、どのように行動するかを書けている児童の姿も見られた。

3年次は、道徳科「はたらくこころ おふろばそうじ」・生活科「にこにこだいさくせん」との関連を持たせ「学級活動(3)イ」に取り組んだ。「にこにこだいさくせん」では、自ら進んで家庭での仕事を考え、家族をにこにこさせるための活動ができた。それは学校での当番活動にも置き換えられることを児童に知らせることで、クラスみんなのにこにこにつながった。

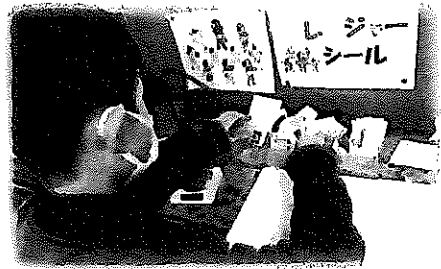
3年間の実践を経て、成果としては、高学年は「係活動が活発化した」「年度当初に立てた計画を見直すきっかけになった」「係活動のメンバー同士のコミュニケーションが増えた」など前向きな事後の感想が聞こえてきた。低学年は、児童の姿より感じ取ったこととして、活動に対してさらに前向きな姿を目指そうというような言動が見られるようになった。今後は、特別活動の学級活動(3)の内容項目を取り扱う上で学級づくりが大きく学習に影響することから、児童本来の思いや素質を発揮する土壌をつくること、安心感のある学級環境を整えることを大切にしながら、特別活動の授業に取り組んでいきたい。



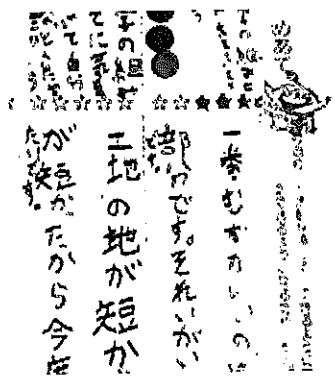
(4) キャリア・パスポートとポートフォリオを活用したキャリア教育 部会

キャリア・パスポート部会では、研究テーマを『児童のキャリア発達を可視化するポートフォリオの在り方と、「生き方探究パスポート」の作成、及び活用の可能性に

ついて研究を深める』と設定し、市内でも先進的に取組を進めている 2 校に焦点を当て、「いかに成長を可視化するか。」また、「各記録をいかに成長につなげるか。」ということに重点を置き、2校の取組を通して考察している。今年度の取組については、午後からの分科会提案でお話させていただくので、ここでは昨年度の取組について紹介する。(キャリア・パスポート部会の取組は、年間を通して実践し検証しているため)



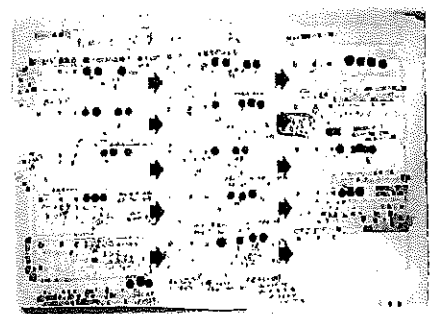
昨年の岩倉北小学校の4年2組では、児童が身に付けたい力を話し合い、キーワード化して子どもがどの場面でもキャリア教育で身につけさせたい力を意識して取り組めるように「キャリア・レンジャー」を作成して取組を進めた。そのようにすることで、成長の可視化をめざした。児童は自分の成長の足跡を、レンジャーの色と連動した色シールを活用してワークシートに残していく。書写の時間では、教科で付けたい力の振り返りとともに、キャリア・レンジャーの視点でもシールを使って振り返った。文章ではなく、シールを活用することで、児童は負担なく取り組むことができた。岩倉北小学校では、他にも体育や図工の時間などでこのような取組を行った。クラスのみならず、みんなで負担なく自分たちの成長を可視化して残すことができる取組となった。



年度末に行った特別活動の時間には、友だちと様々な振り返りシートを共有することで、自分の成長や友だちの頑張りに気づくとともに、次学年に向けての目標設定を行っていた。自分たちの成長に気づくことで、自己肯定感や自信の高まりにつながり、意欲的に次の目標を考え、次々に発表する様子が見られた。

この取組のほかにも、岩倉北小では、学校行事で児童のキャリア発達を促す取組にも力を入れている。

「行事に臨む前の気持ち」→「練習中や話し合い後の気持ち」→「本番直前」→「行事が終わってからの振り返り」というように、行事を通して、自分の気持ちの変化や感じたことを記録していった。それは、時には友だちと交流したりグループでの話し合いに活用されたりすることで、大切な個人の成長記録となった。また、担任が目を通し、その児童の成長をコメントとして記録したり、赤線で強調したりすることや、キャリアカウンセリング的にかかわることで、それはただの記録ではなく、児童のキャリア形成に大きな影響を与えるポートフォリオとしての役割を持つことができた。このように全校行事は、ポートフォリオの作成がしやすいという利点がある。岩倉北小学校



では、ポートフォリオの作成については学校体制として取り組んでいるものの、その取り組み方や、各学年で行事を通してつけさせたい力については各学年に委ねている。そうすることで、指導者にとってもこの取組がより主体的なものとなり、「やら

されている取組」から脱却できる。日々成長する児童を見取り、キャリア発達を促す指導者自身が主体的に取り組まなければ、児童の主体性を育てることは難しい。取組自体を「主体的なもの」にしていく工夫が、そういうところにも垣間見えた。

今後は、昨年度よりバージョンアップした今年度の研究内容をより多くの学校に知らせていきたいと考えている。そうすることで、少しでもキャリア・パスポートの取組が浸透していくようにしていきたい。児童のキャリア発達の足跡を残し、自己理解を深め、これから先のキャリアプランニングを促す足場としてのキャリア・パスポートの在り方について、これからも研究を深めていきたいと考えている。